

平成28年度  
鉄道安全報告書



上田電鉄株式会社

## ごあいさつ

上田電鉄の安全報告書をご覧いただき、誠にありがとうございます。

鉄道事業の運営に当っては、施設・車両の不具合やヒューマンエラーに加え、甚大な被害をもたらす異常気象など様々なリスクがあり、安全を確保するには、このようなリスクをしっかりと認識し対応していくことが重要であると考えております。本報告書は、このような考え方にに基づき、より安全性を高めるための方針や施策を報告するものです。

私どもは、鉄道をご利用のお客様や沿線にお住いの皆様、加えて、社員や協力企業メンバーの「安全・安心」を確保し、地域から信頼される鉄道を目指して取り組んでまいります。本報告書でのお気づきの点やご意見などをお寄せいただければ幸いです。

平成28年9月

上田電鉄株式会社

代表取締役社長 今成 孝雄

### 1. 基本方針と重点施策

#### (1) 基本方針

当社の経営理念の第一は、安全・安心の確保です「安全方針」「行動規範」を次のように掲げ、社長以下従業員全員に周知・徹底しております。

#### 【安全方針】

「安全の確保」は鉄道事業の最大かつ最重要の、お客さまに対する責務である。

その安全は、役職員一人ひとりがルールの意義を認識しかつ遵守し、正則作業を確実に遂行することによって支えられている。

私たちは鉄道事業を担う誇りを共に持ち、役職員相互の双方向コミュニケーションをしっかりと行い、安全の障害となる問題を一体となって速やかに解決し、このお客さまに対する責務を誠実に果たし社会に貢献する。

#### 【行動規範】

- ① 一致協力して輸送の安全確保に努める。
- ② 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正・忠実に職務を遂行する。
- ③ 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努める。
- ④ 職務の遂行に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のあるときは最も安全と思われる取扱をする。

- ⑤ 事故、災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置をとる。
- ⑥ 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保する。
- ⑦ 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦する。

## (2) 重点施策

- ① 問題点早期把握による安全対策の推進  
役職員相互の双方向コミュニケーションを活性化することにより、問題点を早期に把握し、迅速な対応をとる。
- ② 事故情報の確実な伝達と対策実施による再発防止  
自社および他社の事故情報を迅速、正確に職員に伝達することや、過去の重大事故事例に学ぶと共に必要な対策を速やかに実施することにより同種事故の再発防止を図る。
- ③ 事故発生時の対応力向上  
事故想定訓練を定期的実施し、その結果の振り返りを活かすことにより、各職員の事故対応力の向上を図る。
- ④ 管理監督者による事故防止の推進  
管理監督者による添乗指導等現場作業への立ち合い実施により、気付き等を直接指導することで技能の向上と事故防止を図る。

## 2. 事故等の発生状況とその再発防止措置（平成27年度）

### (1) 鉄道運転事故

鉄道運転事故は発生しておりませんが、輸送障害（30分以上の遅延や運休）4件が発生、お客様にご迷惑をおかけいたしました。

①	平成27年	8月9日	高配線地絡	区間運休	11本、運休	3本
②	平成27年	9月14日	車両故障	区間運休	4本	
③	平成28年	1月17日	踏切事故	最大遅延	63分	
④	平成28年	3月14日	車両故障	区間運休	3本	

### (2) インシデント（事故の兆候）

国土交通省へ報告する、インシデントの発生はありませんでした。

### (3) 行政指導等

国土交通省より行政指導等はありませんでした。

### 3. 安全確保の取組み

#### (1) 安全輸送対策工事

当社では安全安定輸送を継続するため、安全輸送対策に取り組んでいます。主な安全輸送対策は、軌間保全のためのコンクリートまくら木への交換、老朽したまくら木の交換、老朽した分岐器の交換、軌道道床の硬質構造化、踏切道の第三種（警報灯器のみ設置）から第一種（自動踏切遮断機設置）踏切道への格上げ、車両の定期検査を実施しております。

28年度以降も継続して着実な進捗に努めてまいります。

#### 平成27年度安全輸送対策

事業名称	実施箇所
コンクリートまくら木化	上田～別所温泉間 451本
まくら木交換	上田～別所温泉間 113本
分岐器交換	下之郷21番分岐器
軌道道床硬質構造化	下之郷～中塩田間 89.75m
踏切道の格上げ	和手農道3号踏切道第三種→第一種踏切道へ格上げ
車両定期検査	1001-1101、1002-1102、1004-1104 編成

単位：千円

27年度実績	28年度計画
135,860	137,407



コンクリートまくら木化工事



和手農道3号踏切道の格上げ

#### (2) ホーム転落事故防止策

視覚障がいをお持ちの方へのホーム転落防止対策を推進しています。

- ・ホーム点状ブロックの設置（上田駅、上田原駅、大学前駅）
- ・列車ホーム到着前の注意放送（上田駅）

- ・車両連結間に転落防止用の外幌を設置（1000系、6000系車両）



上田駅 点状ブロック



車両連結間 転落防止用外幌

### （3）その他安全対策

踏切支障報知装置が設置されている27か所の踏切に対して、SOSシールを施し、踏切内閉じ込め事故時に速やかに異常を知らせることが出来るよう、改善致しました。

また他社線にて発生した電車線セクションオーバー事故に伴う対応として、従来からのセクション区間標識に“入”“出”標識を追加すると共に、区間内にもセクション区間標識を設置し、緊急時により正しい運転取扱いが出来るよう改善致しました。

今後も他社線で発生した事故事例を自社での事例として置き換え、安全の確保に努めてまいります。



踏切支障報知装置・押釦操作箱



セクション区間標識（入口、中間、出口）

### （4）人材教育

- ・新規就業者には各部門担当者により業務に関する教育を実施、鉄道係員としての基礎知識を習得させています。

- ・運転、駅、技術の各担当係員には年間の教育訓練計画をもとに教育を行い、知識の充実・技術技能の向上に努めています。

- ・毎月職員を対象に開催している「業務研究会」の場で、自社および他社の事故事例再発防止教育として、事故発生の原因・背景・対策を学び事故防止の要点を教育指導しております。

(5) 異常時の訓練

踏切事故を想定し6月23日、24日に異常時運転訓練を実施しました。  
また信号故障を想定し1月26日、27日に模型を使い、指導通信式の訓練を実施いたしました。



異常時運転訓練



指導通信式訓練

(6) 安全推進会議の開催

四半期ごとに安全推進会議を開催して、過去に発生した運転支障（途中停車、踏切障害、輸送障害等）の発生状況の再確認と原因・対策について振り返りを行い対策内容に問題はなかったのか確認を行っています。

また、事故には至らなかったもののヒヤリとした、ハットしたという情報を社内各職場から集約・共有し問題の早期発見につなげております。

(7) 夏季輸送安全総点検、年末年始輸送安全総点検時に社長、安全統括管理者による安全巡視を実施。

線路等の安全が確保できているか確認を行い、改善点の指示をしました。



夏季輸送安全総点検・安全巡視



年末年始輸送安全総点検・安全巡視

(8) 意見交換会の開催

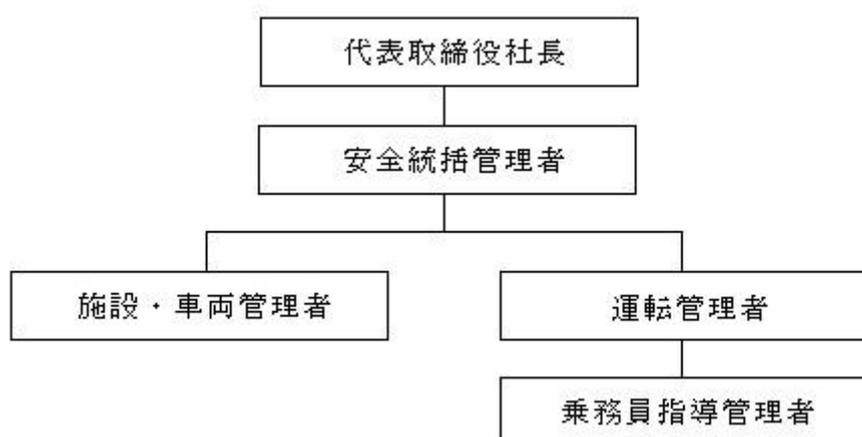
役員相互の双方向コミュニケーションを図るため、経営トップが職員と意見交換会を開催したり、安全統括管理者が現場会議へ参加し、職場環境の改善や安全意識の向上を図っております。



運輸区職員との意見交換会

4. 当社の安全管理体制

代表取締役社長	輸送の安全に関する業務の最終的な責任を負う
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
運転管理者	安全統括管理者の下、運転に関する事項を統括する
施設・車両管理者	安全統括管理者の下、施設・車両に関する事項を統括する
乗務員指導管理者	運転管理者の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する



5. 発行 平成28年9月

6. 連絡先

安全報告書へのご意見、ご感想をお寄せください。

上田電鉄株式会社

長野県上田市下之郷498

TEL 0268-39-7117 (月～金 9時00分～17時00分)

FAX 0268-38-7951

E-mail [unyu@ukg.co.jp](mailto:unyu@ukg.co.jp)